総社町向畑遺跡No. 1

宅地造成工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１５．７

前　橋　市　教　育　委　員　会
有限会社　三　光　企　画
有限会社　毛野考古学研究所

総社町向畑遺跡No. 1

宅地造成工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１５.７

前 橋 市 教 育 委 員 会
有限会社　三　光　企　画
有限会社　毛野考古学研究所

例　　言

１．本書は、宅地造成工事に伴い実施した、総社町向畑遺跡の発掘調査報告書である。

２．調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は同研究所員　土井道昭である。

３．発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、有限会社三光企画に負担して頂いた。

４．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市総社町植野 594、597
遺　跡　コ　ー　ド	26 A 199
発　掘　調　査　期　間	平成 27 年３月9 日～平成 27 年３月 27 日
整理・報告書作成期間	平成 27 年４月1日～平成 27 年７月31 日
発 掘 ・ 整 理 担 当 者	土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）

５．本遺跡に関わる遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

６．本書の編集は土井（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆はＩを藤坂和延（前橋市教育委員会）、他を土井が担当した。

７．発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】　岡村美弥子・川島隆好・鈴木　正・高橋奈緒・勅使川原幸江・中島勝由・永井述史・萩原秀子・橋元裕児・古郡孝一・森山恵子・森山孝男

【整理作業】　池内麻美・合田幸子・瀬尾則子・高橋奈緒・武士久美子・半澤利江

８．発掘調査で出土した遺物及び、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

１．遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺で表現することを基本として掲載し、挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。

２．遺物実測図の縮尺は、１/ １～１/ ４縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

３．遺物実測図に使用している遺物断面のトーンは次の意味を表す。

黒塗り：須恵器、網掛け：灰釉陶器

４．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ：竪穴建物跡　Ｗ：溝跡　Ｄ：土坑　Ｐ：ピット　Ｔ：竪穴状遺構

５．遺構及び土器の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

目　　次

例言・凡例
目次・図版目次・表目次・写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯…… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境…… 2
　1　地理的環境…… 2
　2　歴史的環境…… 2
Ⅲ　調査の方法と経過…… 3
　1　調査の方法…… 3
　2　調査の経過…… 3
Ⅳ　標準堆積土層…… 4
Ⅴ　遺構と遺物…… 4
　1　遺跡の概要…… 4
　2　竪穴建物跡…… 7
　3　掘立柱建物跡…… 8
　4　土坑…… 9
　5　竪穴状遺構…… 13
　6　溝…… 13
　7　ピット…… 17
　8　焼土…… 17
　9　遺構外出土遺物…… 17
Ⅵ　まとめ…… 18
写真図版
抄録
奥付

図版目次

Fig. 1　調査区域図 …… 1
Fig, 2　総社町向畑遺跡№1位置図 …… 2
Fig. 3　遺跡分布図 …… 3
Fig. 4　標準堆積土層 …… 4
Fig. 5　全体図 …… 6
Fig. 6　H－1号竪穴建物跡 …… 7
Fig. 7　H－1号竪穴建物跡出土遺物 … 8
Fig. 8　B－1号掘立柱建物跡・B－2号掘立柱建物跡 … 9
Fig. 9　土坑出土遺物 ……10
Fig. 10　土坑（1）……11
Fig. 11　土坑（2）……12
Fig. 12　T－1号竪穴状遺構……13
Fig. 13　T－1号竪穴状遺構出土遺物……13
Fig. 14　W－1号溝・W－2号溝……14
Fig. 15　W－2号溝（1）…… 14
Fig. 16　W－2号溝（2）…… 15
Fig. 17　W－2号溝出土遺物… 16
Fig. 18　1号焼土範囲…… 17
Fig. 19　遺構外出土遺物…… 17

表目次

Tab. 1　竪穴建物跡一覧表 ……4
Tab. 2　掘立柱建物跡一覧表 …4
Tab. 3　土坑一覧表（1）……4
Tab. 4　土坑一覧表（2）……5
Tab. 5　竪穴状遺構一覧表 ……5
Tab. 6　溝一覧表 ……5
Tab. 7　ピット一覧表 ……5
Tab. 8　H－1号竪穴建物跡出土遺物観察表 …7
Tab. 9　土坑出土遺物観察表 ……10
Tab. 10　T－1号竪穴状遺構出土遺物観察表…13
Tab. 11　W－2号溝出土遺物観察表……16
Tab. 12　遺構外出土遺物観察表……17

写真図版目次

PL. 1　調査区全景
　　調査区全景
PL. 2　H－1号竪穴建物跡　遺物出土状態
　　T－1号竪穴状遺構　完掘状態
　　D－6号土坑　完掘状態
PL. 2　D－10号土坑　完掘状態
　　D－12号土坑　セクション
　　W－2号溝　遺物出土状態
　　W－3号溝　完掘状態
　　調査区北西端　標準堆積土層
PL. 3　出土遺物
PL. 4　出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

平成 26 年 11 月 21 日、開発人である有限会社三光企画より当該地での宅地造成計画に伴う埋蔵文化財に関する問い合わせがあり、協議を開始するとともに、「埋蔵文化財試掘調査依頼書」が提出された。同年 12 月 15 ～ 17 日、文化財保護課は試掘・確認調査を実施した。その結果、古墳時代の住居跡・土坑等を確認し、埋蔵文化財の保護について具体的な協議を開始した。12 月 24 日、開発人からの文化財保護法第 93 条第 1 項の届出により工事の概要が提示され、計画に即しての埋蔵文化財の取扱いを検討。発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで開発人の合意を得た。教育委員会では既に他の遺跡において直営による発掘調査を実施しており、本遺跡の直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになった。平成 27 年３月３日付けで開発人と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所の間で発掘調査・整理業務委託の契約を締結されるとともに、開発人・有限会社毛野考古学研究所・教育委員会との間で三社協定が締結され、同年３月９日から現地調査が開始された。

Fig. 1　調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現形図 42- 1 ・42- 3 』1/2,500）

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　地理的環境

本遺跡は前橋市域の北西部、ＪＲ上越線・群馬総社駅北東約 200 ｍの総社町植野に所在する。地形的には利根川右岸域の前橋台地上に立地する。前橋台地は、浅間山噴火に伴う山体崩壊（約２万年前）による「前橋泥流」が、利根川によって赤城山・榛名山の山麓の間から関東平野に流出した所に堆積して形成された緩傾斜地の扇状地性台地である。市域の西側は利根川が貫流しており、微高地や後背湿地を形成している。台地上では榛名山麓を源とする小河川が利根川に向けて北西－南東方向に流下し、台地を開析している。本遺跡は午王頭川と八幡川に挟まれた緩傾斜の台地上に立地するが、午王頭川は総社町の元景寺北方で利根川に合流し、八幡川は総社町大字屋敷付近で天狗岩用水と合流し、滝川と名称を変えて佐波郡玉村町川井で烏川と合流する。

２　歴史的環境

本遺跡周辺を概観すると、縄文時代は高井桃ノ木遺跡【20】で前期の包含層が、中期～後期の住居跡が新田入口遺跡【22】などで確認されている。弥生時代は後期の住居跡が見柳東遺跡【23】・桜ヶ丘遺跡【４】などで検出されている。古墳時代は中期～後期になると首長層の居館跡が確認された三ッ寺Ⅰ遺跡を中心として総社地域においても遺跡数が増大する。畠・水田等の生産域は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中している。古墳は数多く築造されており、利根川右岸域において５世紀後半に遠見山古墳【10】が築造されたのをはじめ、総社二子山古墳【８】・愛宕山古墳【９】・宝塔山古墳【12】・蛇穴山古墳【13】などの大型古墳が築造されており、これらは総社古墳群と呼称される。奈良・平安時代は近接する元総社地区において、上野国府・国分僧寺・国分尼寺が置かれ、古代上野国の中枢を担う地域へと編成される。一方で、一般的な集落は総社桜ヶ丘遺跡【３】・中島遺跡【19】・若宮遺跡【５】などの国府推定域外に多く分布する傾向が見られるが、これに伴う生産遺跡は少なく、元総社北川遺跡や日高遺跡から散見される。中世では室町時代に入ると、上野国府の地割を利用した蒼海城が築城され、上野国守護代の長尾氏がこれを改修し本拠地とした。この他、本遺跡周辺の平野部でも屋敷に堀を巡らせた環濠屋敷などが認められる。江戸時代になると、慶長初期に河岸段丘を利用した「総社城」【25】が築城される。城主である秋元長朝は、領内の経済基盤を安定させるため、慶長９(1604) 年に天狗岩用水を開削した。本遺跡の東側を南流するこの用水は、現在でもなお、農業用水として利用されている。

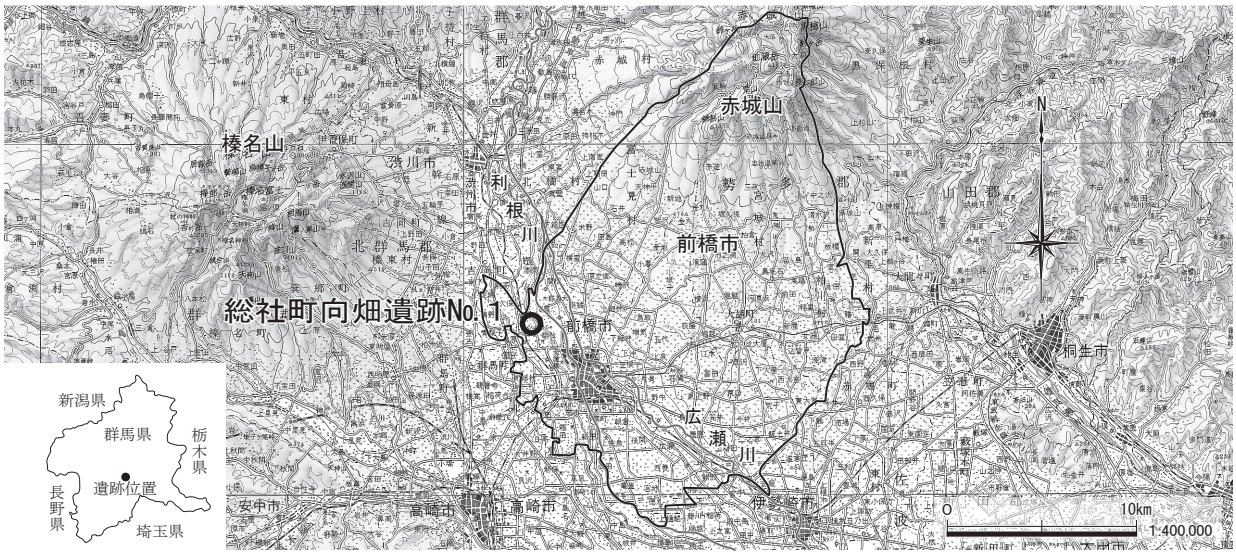
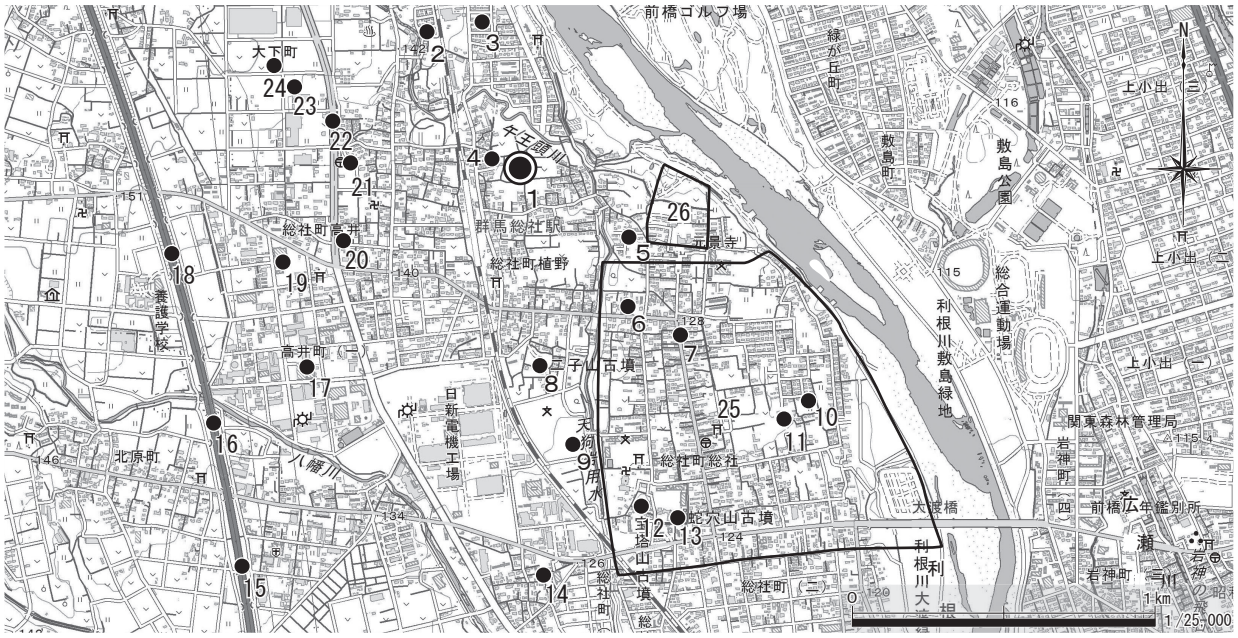


Fig.　２　総社町向畑遺跡№１位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000 を 50％縮小）



1．総社町向畑遺跡　2．西久保遺跡　3．総社桜ヶ丘遺跡　4．桜ヶ丘遺跡　5．若宮遺跡　6．稲荷山古墳　7．大小路山古墳　8．総社二子山古墳　9．愛宕山古墳　10. 遠見山古墳　11. 城川遺跡　12. 宝塔山古墳　13. 蛇穴山古墳　14. 村東遺跡　15. 国分境Ⅱ遺跡　16. 北原遺跡　17. 柿木遺跡　18. 下東西遺跡　19. 中島遺跡　20. 高井桃ノ木遺跡　21. 総社植野北開土遺跡　22. 新田入口遺跡　23. 見柳東遺跡　24. 見柳東Ⅱ遺跡　25. 総社城跡　26. 勝山城跡

Fig. 3　遺跡分布図（国土地理院発行『前橋』1/25,000）

Ⅲ　調査の方法と経過

1　調査の方法

委託調査箇所は宅地造成に伴う用地で、開発集落対象地 16,000 ㎡のうち、調査面積は 150 ㎡である。前橋市教育委員会による試掘成果や周辺遺跡の状況から、調査対象地内からは古墳～奈良・平安時代の集落跡が想定されていた。

表土掘削は試掘調査の成果を参考に、0.45 ㎡バックホーを用いて基本層序第Ⅳ層まで掘削をし、近現代における攪乱を受けている調査区南側の一部分については第Ⅷ層まで掘削をした。表土掘削後は人力による遺構の確認と検出を行った。遺構の掘削にあたっては、土層観察用のベルト設定および半截によって各遺構の埋没状況や構築状態の把握に努め、測量および写真撮影による記録保存は適宜実施した。写真は 35 ㎜モノクロフィルム、35 ㎜リバーサルフィルム、デジタルカメラで撮影し、全体の遺構検出終了後にはマルチコプターにより空中写真撮影を行った。

2　調査の経過

現地での発掘調査は平成 27 年３月９日～３月 27 日まで行った。

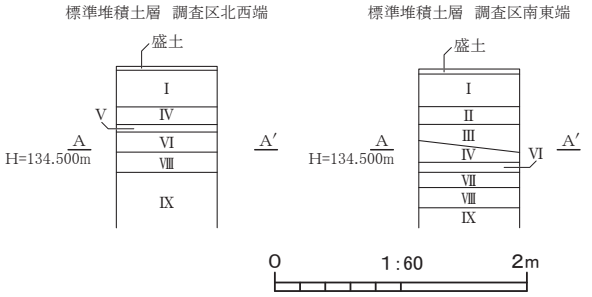
３月９日：重機による表土掘削。発掘器材の搬入。発掘作業員を動員。10 日：遺構精査確認作業。11 日：遺構調査（～ 24 日）。13 日:ＧＰＳ観測による基準点設置。25 日:調査区航空写真撮影および遺構測量（～ 26 日）。前橋市教育委員会による調査終了確認。27 日：器材撤収を行い、現地における発掘調査終了。

整理・報告書作成業務については、平成 27 年４月１日から７月 31 日にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。

Ⅳ　標準堆積土層

調査区北西端および北東端にトレンチを設け標準堆積土層を観察したところ、Ⅰ～Ⅸ層が確認された。遺構確認面については、試掘調査結果を参考にⅣ層上面とした。遺構確認面の標高は約 134 mを測り、南東方向へ緩やかに傾斜している。今回の調査ではⅨ層の浅黄橙色砂層まで確認しており、遺跡地周辺の調査事例などから総社砂層と考えられる。なお、同砂層はⅠ－２の底面（遺構確認面から約２ｍ下面）からも確認されている。総社砂層の上位にはⅥ～Ⅷ層が認められ、粘性の強いシルトや粘質土がそれぞれ堆積しており、午王頭川や八幡川など小河川の氾濫などによる水成堆積層と考えられる。Ⅳ・Ⅴ層には浅間Ｃ軽石（３世紀末葉降下）、Ⅲ層にはHr-FA 軽石（６世紀初頭降下）、Ⅱ層には浅間Ｂ軽石（1108 年降下）、Ⅰ層には浅間Ａ軽石がそれぞれ混入している。これらの層位については、人為的な耕作土と考えられる。

各土層の観察は以下の通りである。



標準堆積土層説明

Ⅰ	灰黄褐色土	10YR6/2	白色軽石φ2～10㎜多量、橙色軽石φ2㎜少量、焼土粒微量含む。しまりあり、粘性弱い。
Ⅱ	黒褐色土	10YR3/1	黄褐色φ2㎜多量、焼土粒・灰黄色軽石φ2㎜少量含む。しまりあり、粘性やや弱い。
Ⅲ	黒褐色土	10YR3/2	白色軽石φ2㎜多量、橙色軽石２～５㎜・Ⅳ層ブロックφ２～20㎜少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
Ⅳ	黄褐色土	10YR5/6	白色軽石φ2～５㎜中量、橙色軽石・黄色軽石２㎜・Ⅵ層ブロックφ2～30㎜少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
Ⅴ	にぶい黄褐色土	10YR5/4	Ⅳ層とⅥ層との漸移層。Ⅵ層ブロックφ2～20㎜中量含む。しまりあり、粘性ややあり。
Ⅵ	黒褐色土	10YR3/1	白色軽石φ2㎜中量、橙色軽石φ2㎜少量含む。しまりあり、粘性強い。
Ⅶ	暗褐色土	10YR3/3	鉄斑中量含む。しまり・粘性強い。
Ⅷ	にぶい黄橙色土	10YR6/3	灰白色シルトブロック・褐灰色粘質土ブロックφ2～20㎜中量、灰白色軽石φ2㎜少量含む。しまり・粘性あり。
Ⅸ	浅黄橙色砂	10YR8/4	細砂・シルトを主体とし、灰白色軽石・黄橙色軽石φ2～５㎜中量含む。しまりあり、粘性なし。ラミナ状の堆積層。

Fig. 4　標準堆積土層

Ⅴ　遺構と遺物

１．遺跡の概要

今回の調査では竪穴建物跡１軒、掘立柱建物跡２軒、土坑 14 基、竪穴状遺構１基、溝３条、ピット 44 基（掘立柱建物跡の柱穴含む）、焼土範囲１箇所が検出された。各遺構の計測値は一覧表に記載している。

Tab. 1　竪穴建物跡一覧表

遺構名	平面形態	規模（m）		主軸	カマド（m）		貯蔵穴（m）		出土遺物	備考
		長軸×短軸	深さ		全長	幅	長軸×短軸	深さ		
Ｈ－１	方形基調	(2.52) × (1.8)	0.4	Ｎ－63°－Ｅ	(1.20)	(0.80)	0.84 × 0.63	0.65	土師器（坏・甕）、須恵器（甕・壺）、陶器（碗）	６世紀前半

Tab. 2　掘立柱建物跡一覧表

遺構名	規模（m）			主軸	出土遺物	備考
	長軸	短軸	柱心間			
Ｂ－１	3.77	3.59	3.55 ～ 3.68	Ｎ－60°－Ｅ	－	１間×１間、Ｐ－04・05・06(07)
Ｂ－２	3.85	3.81	3.52 ～ 3.57	Ｎ－60°－Ｅ	－	１間×１間、Ｐ－03・12・18・19

Tab. 3　土坑一覧表（１）

遺構名	規模（m）		平面形態	断面形態	出土遺物	埋没土 / 備考
	長軸×短軸	深さ				
Ｄ－１	1.50 × 1.09	0.13	(長方形)	箱型	土師器（坏・甕）、須恵器（甕・壺）、陶器（碗）	Ａｓ－Ａ混土。
Ｄ－２	1.35 × 0.85	0.41	長方形	箱型	縄文土器（深鉢）、土師器（坏・甕）、須恵器（坏・甕・壺）、陶器（皿・擂鉢）	Ａｓ－Ａ混土。
Ｄ－３	1.62 × 1.10	0.27	不整形	不整形	－	Ａｓ－Ａ混土。
Ｄ－４	0.62 × 0.59	0.4	円形	Ｕ字状	土師器（甕）	Ａｓ－Ｂ混土。

Tab. 4　土坑一覧表（2）

遺構名	規模（m）		平面形態	断面形態	出土遺物	埋没土 / 備考
	長軸×短軸	深さ				
D－5	1.08 × 0.70	0.33	長方形	箱型	土師器（坏・甕）	As－A混土。
D－6	2.36 × 0.62	0.45	長方形	箱型	土師器（甕）	As－B混土。
D－7	2.59 × 0.75	0.26	長方形	箱型	土師器（坏・甕）、須恵器（甕・壺）	As－B混土。
D－8	1.57 × 1.30	0.08	不整形	皿状	土師器（坏・甕）	As－C・Hr－FA混土。
D－9	(0.83) × (0.81)	0.71	楕円形基調	逆台形	土師器（坏・甕）	As－C混土。
D－10	2.16 × 1.44	0.29	長方形	逆台形	土師器（坏・甕）	As－C・Hr－FA混土。
D－11	(0.85) × (0.43)	(0.76)	円形基調	箱型	土師器（坏）	As－B混土。I-1から変更。
D－12	2.67 × 2.32	(2.06)	円形基調	袋状	土師器（坏・甕）、青磁碗	As－B混土。I-2から変更。
D－13	0.81 × (0.15)	0.26	(不整形)	不整形	－	As－B混土。
D－14	(0.86) × (0.33)	0.42	(楕円形基調)	箱状	－	As－B混土。

Tab. 5　竪穴状遺構一覧表

遺構名	規模（m）		平面形態	断面形態	出土遺物	埋没土 / 備考
	長軸×短軸	深さ				
T－1	1.50 × 1.09	0.13	(長方形)	(長方形)	弥生土器（甕）、土師器（坏・高坏・甕）、須恵器（坏・甕・壺）	

Tab. 6　溝一覧表

遺構名	規模（m）			断面形態	出土遺物	備考
	上端幅	下端幅	深さ			
W－1	0.85 ～ 0.98	0.72 ～ 0.80	0.08	U字状	土師器（坏・甕）、須恵器（坏・甕・壺）、陶器（碗）	
W－2a	1.07 ～ 1.30	0.21 ～ 0.24	1.42	箱薬研	弥生土器（甕）、土師器（坏・高坏・甕・甑）、須恵器（坏・甕・壺）、灰釉陶器（碗）、土錘、砥石	
W－2b	2.32 ～ 4.28	0.49 ～ 0.70	1.23	U字状	弥生土器（甕）、土師器（坏・高坏・甕・甑）、須恵器（甕・壺）	
W－3	0.72 ～ 0.92	0.59 ～ 0.83	0.10	逆台形	－	

Tab. 7　ピット一覧表

遺構名	規模（m）		平面形態	出土遺物	埋没土 / 備考
	長軸×短軸	深さ			
P－1	0.24 × 0.23	0.26	方形	－	As-B 混土。柱痕あり。
P－2	0.26 × 0.25	0.24	不整形	－	As-C 混土。柱痕あり。
P－3	0.37 × 0.30	0.52	不整形	－	As-B・Hr-FA 混土。
P－4	0.42 × 0.38	0.34	楕円形	－	As-B・Hr-FA 混土。
P－5	0.47 × 0.39	0.54	楕円形	－	As-B・Hr-FA 混土。
P－6	0.42 × 0.31	0.27	楕円形	－	As-C 混土。
P－7	(0.42) × (0.18)	－	不整形	－	As-C 混土。
P－8	0.25 × 0.23	0.48	不整形	－	As-C・Hr-FA 混土。
P－9	0.19 × 0.16	0.25	不整形	－	As-C・Hr-FA 混土。
P－10	0.26 × 0.18	0.23	楕円形	－	As-C・Hr-FA 混土。
P－11	0.29 × 0.26	0.57	不整形	－	As-C・Hr-FA 混土。
P－12	0.31 × 0.28	0.25	不整形	－	As-C 混土。
P－13	0.33 × 0.29	0.20	不整形	－	As-C 混土。
P－14	0.31 × 0.25	0.19	楕円形	－	As-C 混土。
P－15	0.29 × 0.25	0.20	不整形	－	As-C・Hr-FA 混土。
P－16	0.26 × 0.25	0.13	不整形	－	As-C・Hr-FA 混土。
P－17	0.30 × 0.28	0.21	不整形	－	As-B 混土。
P－18	0.22 × 0.21	0.38	円形	－	As-B 混土。
P－19	0.27 × 0.24	0.76	不整形	－	As-B 混土。
P－20	0.40 × 0.29	0.35	長方形	－	As-B 混土。
P－21	0.41 × 0.35	0.19	長方形	－	As-B 混土。
P－22	0.31 × 0.30	0.15	円形	－	As-B 混土。
P－23	(0.18) × 0.19	0.12	楕円形基調	－	As-B 混土。
P－24	0.28 × 0.25	0.24	楕円形	－	As-B 混土。
P－25	0.27 × 0.24	0.26	不整形	－	As-B 混土。
P－26	0.30 × 0.28	0.15	円形	－	As-B 混土。
P－27	0.30 × 0.30	0.44	円形	－	As-B 混土。
P－28	0.34 × 0.28	0.19	不整形	－	As-B 混土。
P－29	0.30 × 0.27	0.18	楕円形	－	As-B 混土。
P－30	0.20 × 0.18	0.22	不整形	－	As-B 混土。
P－31	0.22 × 0.20	0.13	不整形	－	As-B 混土。
P－32	0.29 × 0.27	0.13	円形	－	As-B 混土。
P－33	0.26 × 0.26	0.20	不整形	－	As-B 混土。
P－34	0.69 × 0.55	0.19/0.08	不整形	－	As-B 混土。
P－35	(0.30) × 0.28	0.45	不整形	－	As-B 混土。
P－36	0.25 × 0.20	0.16	不整形	－	As-B 混土。
P－37	0.23 × 0.23	0.16	円形	－	As-B 混土。
P－38	(0.17) × 0.14	0.09	楕円形	－	As-B 混土。
P－39	(0.40) × (0.29)	0.29	不整形	－	As-B 混土。
P－40	(0.70) × (0.22)	0.12	不整形	－	As-B 混土。
P－41	0.24 × 0.23	0.29	円形	－	As-B 混土。
P－42	0.32 × 0.29	0.42	楕円形	－	As-B 混土。
P－43	0.26 × 0.26	0.29	円形	－	As-B 混土。
P－44	0.24 × 0.20	0.21	楕円形	－	As-B 混土。

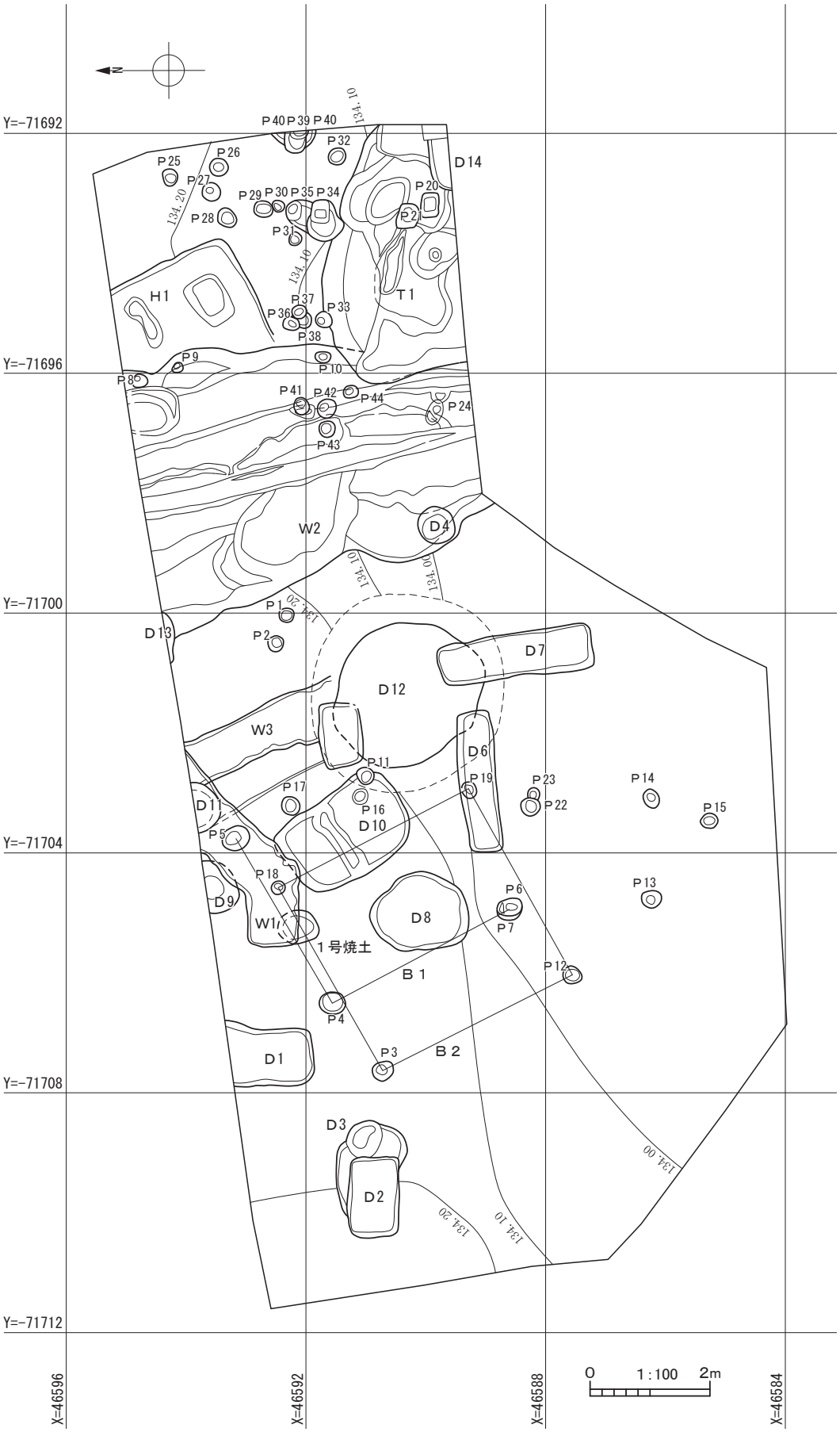
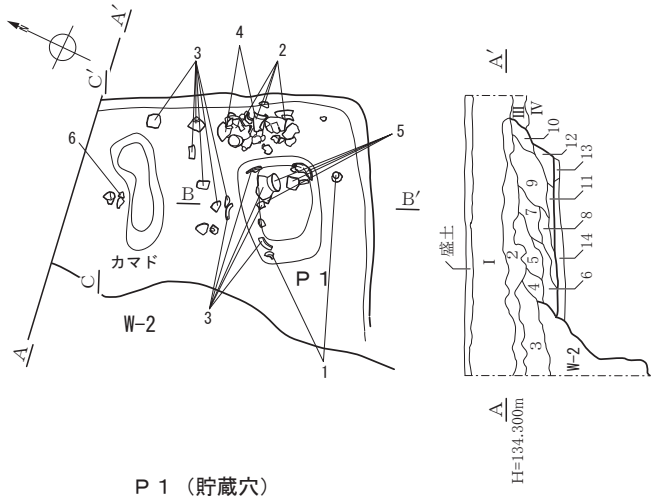

Y=-71692
Y=-71696
Y=-71700
Y=-71704
Y=-71708
Y=-71712
X=46596
X=46592
X=46588
X=46584
0 1:100 2m
P40 P39 P40
P32
P25
P26
P27
P28
P29 P30 P35 P34
P20
P2
P31
P37
P36
P33
P38
P9
P8
P10
P41 P42
P44
P24
P43
D14
H1
T1
W2
D4
D13
P1
P2
D7
D12
W3
D6
P11
P17
P16
D10
P19
P23
P22
P14
P15
D11
P5
P18
D9
W1
D8
P6
P7
P13
1号焼土
B 1
P12
P4
P3
B 2
D1
D3
D2
134.10
134.20
134.10
134.00
134.20
134.10
134.00
134.20
134.10

Fig. 5　全体図

２．竪穴建物跡

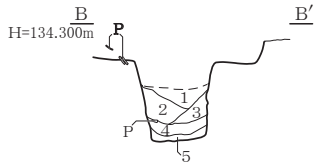
Ｈ－１号竪穴建物跡は調査区北東側で検出されており、プラン南西側は重複するＷ－２b 号溝に切られている。カマドは東壁中央寄りに付設されているが、遺存状態が悪く右袖の一部を検出したのみである。南東コーナー付近からは貯蔵穴が確認され、埋没土の中～下層から土師器（甕・高坏）が出土し、さらに、その東側の床面付近からは３個体の土師器甕の破片がそれぞれ出土している。床面は地山面をそのまま利用しており概ね平坦である。床面からは硬化面・主柱穴・壁周溝などの明確な痕跡は検出されなかった。帰属時期については、出土遺物から６世紀前半と想定される。



Ｈ－１　土層説明

1	灰黄褐色土	10YR5/2	As-B 混土主体、焼土粒・Ⅸ層ブロック φ２～15㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
2	黒褐色土	10YR3/1	As-B 混土主体、As-C・Hr-FA φ２～５㎜・Ⅳ・Ⅵ層ブロック φ２～15㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
3	黒褐色土	10YR3/1	As-C φ２～５㎜中量、Hr-FA φ２㎜少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
4	黒褐色土	10YR3/1	As-C φ２～10㎜中量、焼土粒少量含む。しまり・粘性やや弱い。
5	黒褐色土	10YR3/2	As-C φ２～５㎜中量、焼土粒少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
6	褐灰色土	10YR4/1	焼土粒・As-C φ２～５㎜中量、炭化物微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
7	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック φ２～10㎜・As-C φ２～５㎜中量、焼土粒少量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
8	にぶい赤褐色土	5YR4/4	焼土粒・焼土ブロック φ２～15㎜中量、As-C φ２㎜少量、炭化物微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
9	にぶい赤褐色土	5YR4/3	焼土粒・焼土ブロック φ２～50㎜多量、As-C φ２㎜少量、Ⅸ層ブロック φ２～10㎜微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
10	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土粒・As-C φ２㎜少量、焼土ブロック φ５㎜微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
11	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・As-C φ２㎜少量、Ⅵ層ブロック φ２～10㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
12	褐灰色土	10YR4/1	焼土粒・As-C φ２～５㎜・Ⅸ層ブロック φ２～10㎜少量、炭化物微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
13	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・As-C φ２～５㎜・Ⅵ層ブロック φ２～10㎜少量含む。しまり・粘性ややあり。
14	黒褐色土	10YR3/1	Ⅵ層主体。焼土粒・As-C φ２～５㎜・Ⅳ層ブロック φ２～10㎜少量含む。しまり・粘性強い。掘り方覆土。

Ｐ１（貯蔵穴）

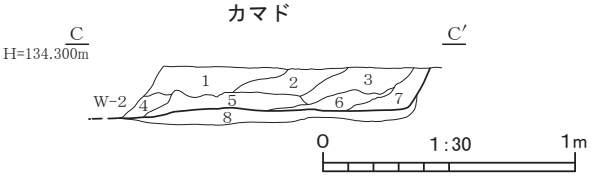


Ｈ－１　Ｐ１土層説明

1	褐灰色土	10YR4/1	As-C φ２～５㎜多量、焼土粒中量、炭化物微量含む。しまり・粘性ややあり。
2	黒褐色土	10YR3/1	As-C φ２～５㎜・焼土粒中量、Ⅸ層ブロック φ２～10㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
3	黒褐色土	10YR3/1	As-C φ２～５㎜中量、焼土粒・炭化物・Ⅸ層ブロック φ２～10㎜少量含む。しまり・粘性ややあり。
4	黒褐色土	10YR3/1	As-C φ２～５㎜中量、焼土粒・炭化物少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
5	褐灰色土	10YR4/1	焼土ブロック φ２～20㎜中量、焼土粒・炭化物・As-C φ２㎜少量含む。しまりややあり、粘性強い。

0　1:60　2m

カマド



H-1カマド土層説明

1	黒褐色土	10YR3/1	As-C・Hr-FA φ２～５㎜多量、焼土ブロック φ２～５㎜中量、炭化物少量、Ⅷ・Ⅸ層ブロック φ２～５㎜微量含む。しまりややあり。粘性やや弱い。
2	黒褐色土	10YR3/2	As-C φ２㎜多量、焼土粒・焼土ブロック φ２～10㎜中量、炭化物少量、Ⅷ層ブロック φ２～５㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
3	褐灰色土	5YR4/1	焼土粒・焼土ブロック φ５～30㎜多量、As-C φ２㎜・炭化物少量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
4	褐灰色土	10YR4/1	焼土粒・焼土ブロック φ２～10㎜・As-C φ２㎜・Ⅷ層ブロック φ２～５㎜中量含む。しまりあり、粘性ややあり。
5	褐灰色土	7.5YR5/1	灰・焼土ブロック φ２～30㎜多量、炭化物・粘土粒微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
6	黒褐色土	10YR2/1	灰多量、焼土粒・炭化物中量、焼土ブロック φ２～10㎜少量含む。しまり弱い、粘性やや弱い。
7	褐灰色土	10YR5/1	Ⅷ層ブロック φ２～10㎜中量、Ⅳ層ブロック φ２～10㎜少量、焼土粒・As-C φ２㎜微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
8	暗褐色土	10YR3/2	Ⅵ層ブロック φ２～15㎜・As-C φ２㎜中量、焼土粒・Ⅳ層ブロック φ２～20㎜少量含む。しまり強い、粘性あり。

Fig. 6　Ｈ－１号竪穴建物跡

Tab. 8　Ｈ－１号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	土師器 高坏	底径　10.2	①酸化焔　②明赤褐 ③赤褐色粒・白色粒・透明粒 ④脚部～裾部 4/5	外面：脚部～裾部ミガキ。 内面：脚部ナデ、裾部ヨコナデ。	
2	土師器 甕	口径　18.2	①酸化焔　②にぶい褐 ③黒色鉱物・白色粒・チャート　④口縁部～胴部 5/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
3	土師器 甕	口径　17.0 底径　6.4 器高　29.1	①酸化焔　②にぶい黄橙 ③透明粒・黒色鉱物・白色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部ヨコナデ、指頭痕。胴部～底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。	
4	土師器 甕	口径　15.2 底径　8.0 器高　27.9	①酸化焔　②にぶい褐 ③角閃石・白色粒・透明粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ後ナデ。底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ後ナデ。底部ナデ。	
5	土師器 壺	口径　14.6	①酸化焔　②にぶい黄橙 ③角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部～胴部上半 5/6	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	
6	粘土塊	長さ 5.6　幅 6.0　厚さ 1.7　重さ 35.4 g。一面はナデ調整をし、平坦である。			

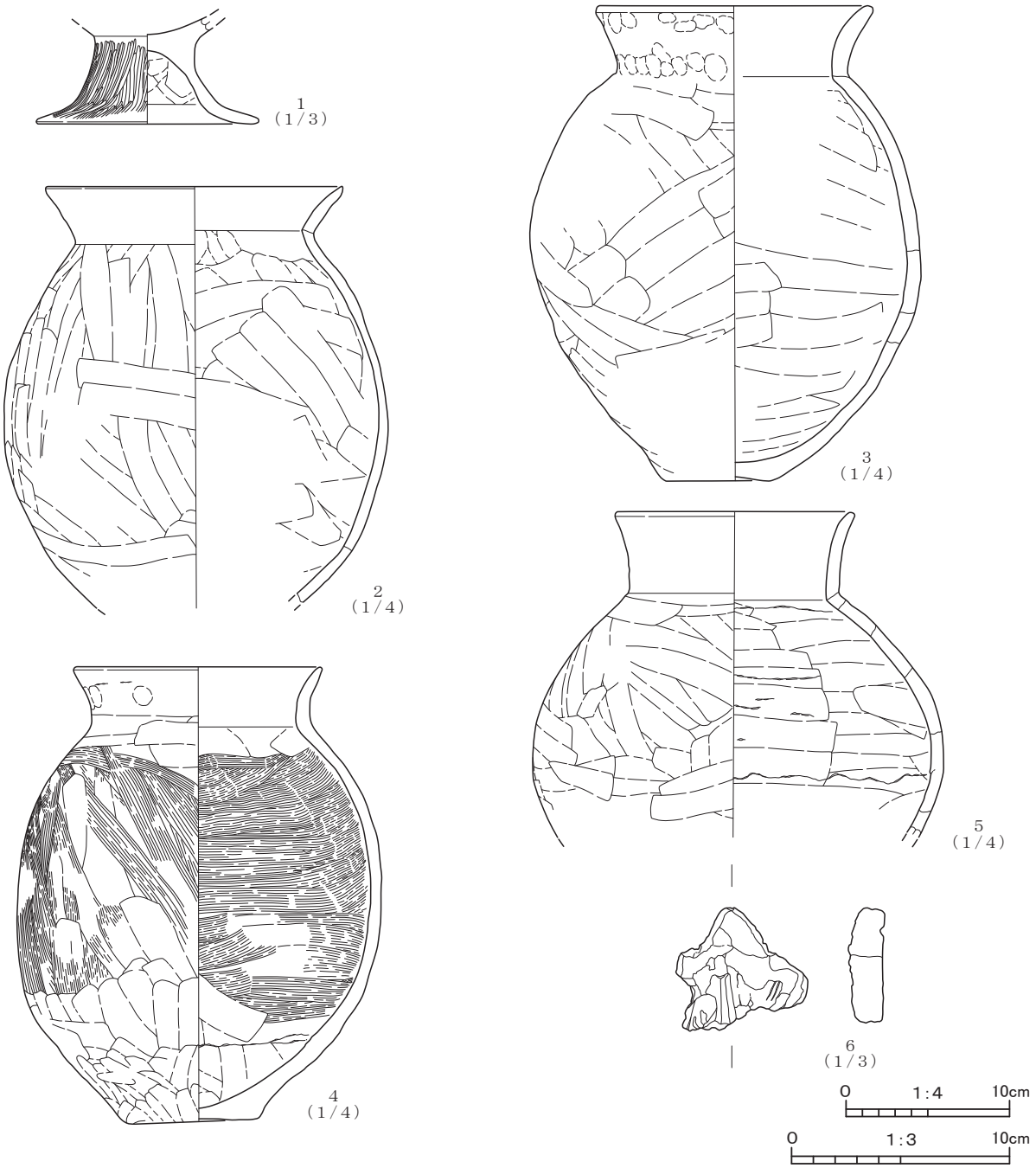


Fig. 7　H－１号竪穴建物跡出土遺物

３．掘立柱建物跡

Ｂ－１・２号掘立柱建物跡は柱間１間の側柱建物跡と推測される。なお、Ｂ－１号掘立柱建物跡は柱穴が３基のみであるが、検出されなかった柱穴については、Ｄ－ 12 号土坑に壊されている可能性が考えられる。各柱穴の埋没土中には、Ａｓ－ＣやＨｒ－ＦＡの軽石が混入していることから古墳時代～古代に帰属すると思われる。さらに、埋没状態を観察すると、Ｂ－１号掘立柱建物跡の柱穴３基およびＢ－２号掘立柱建物跡の柱穴２基は、柱材が抜き取られた後に人為的に埋め戻されていた。なお、Ｂ－１・２号掘立柱建物跡の周辺には、Ｄ－９・10 号土坑やＷ－３号溝が検出されており、埋没土や軸方位などが類似していることから関連性が窺われる。

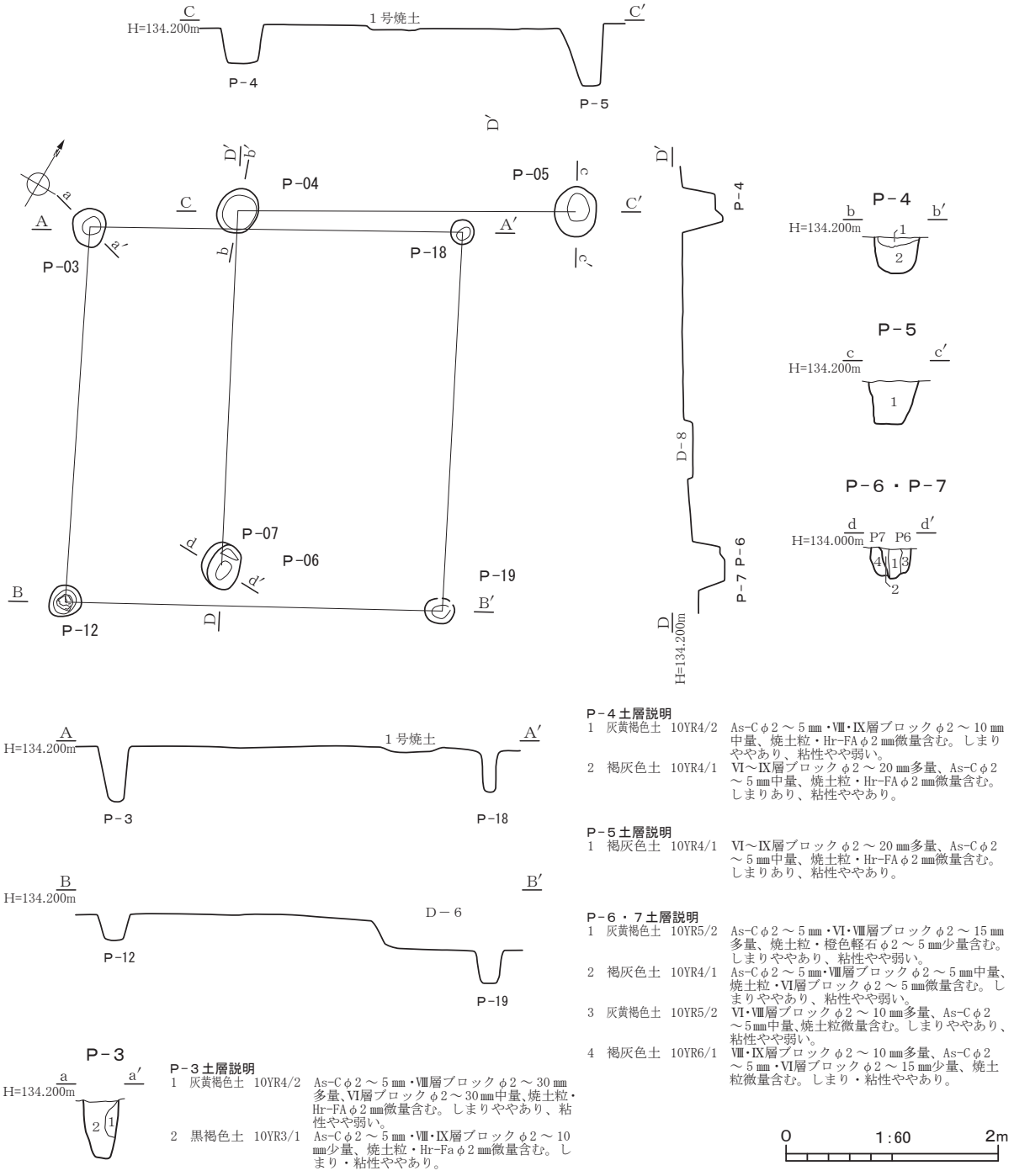


Fig. 8　Ｂ－１号掘立柱建物跡・Ｂ－２号掘立柱建物跡

４．土坑

土坑は 14 基検出された。Ｄ－１～７・11 ～ 14 号土坑の 11 基は、平面形態が長方形状を呈するものや東西方向および南北方向に長軸をもつものが多く、埋没土にはＡｓ－Ａ軽石やＡｓ－Ｂ軽石が混入している。いずれの土坑も出土遺物が少なく詳細な時期を示すことは難しいが、Ｄ－１・２号土坑からは近世陶磁器の破片が出土し、Ｄ－ 12 号土坑からは 13 世紀前半と考えられる青磁碗の破片が１点出土している。上記の 11 基の時期は、埋没土や出土遺物などから中世～近世に帰属するものと判断される。Ｄ－８・９・10 号土坑の３基については、平面形態に共通性は認められないものの埋没土中にＡｓ－ＣやＨｒ－ＦＡの軽石が混入し、そのうちＤ－８・10

号土坑は人為的に埋め戻されていた。Ｄ－９号土坑は、規模や埋没状態がＨ－１号竪穴建物跡の貯蔵穴と近似しており、埋没土の中～下層からは６世紀前半と想定される土師器（坏・甕）が出土している。Ｄ－８～10号土坑は、Ｂ－１・２号掘立柱建物跡との位置関係から竪穴建物跡に関連する付帯施設（貯蔵穴・床下土坑）の可能性が考えられる。

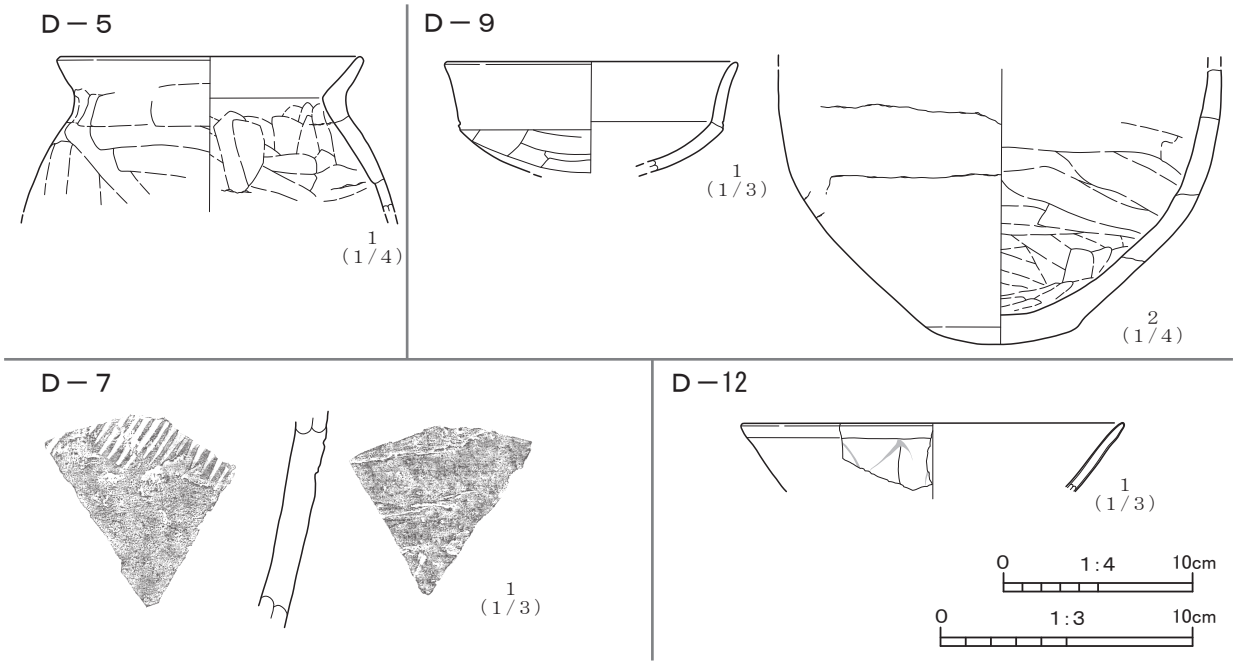


Fig. 9　土坑出土遺物

Tab. 9　土坑出土遺物観察表

Ｄ－５号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	土師器 甕	口径（16.2）	①酸化焔　②にぶい橙 ③角閃石・白色粒・透明粒 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	

Ｄ－７号土坑

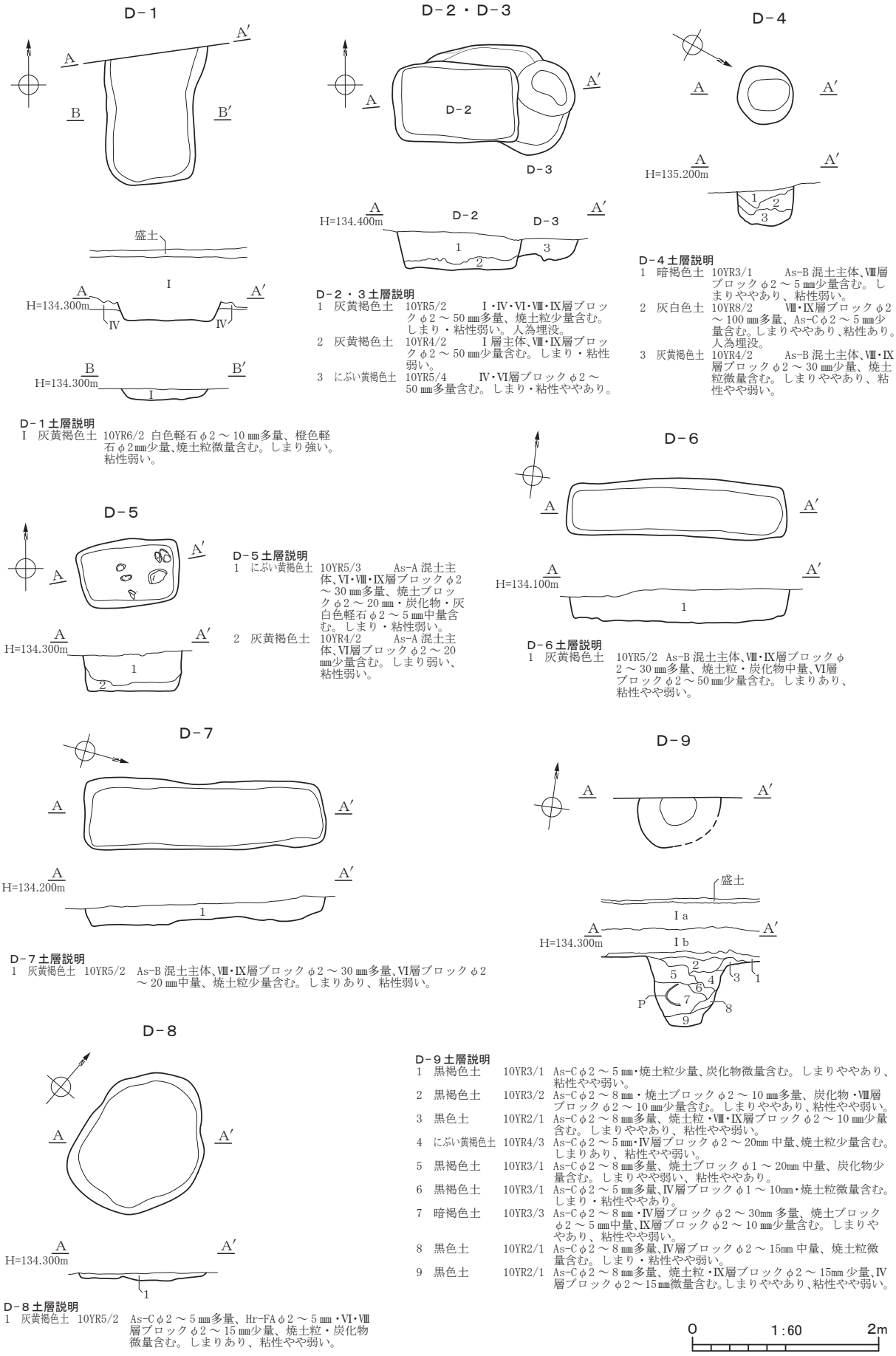
番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	焼締陶器 甕		①堅緻　②暗灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④胴部片	外面：轆轤整形、格子状の押印。 内面：轆轤整形。	常滑。

Ｄ－９号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	土師器 坏	口径（11.6）	①酸化焔　②橙 ③白色粒・黒色粒・透明粒 ④口縁部～体部 1/6	外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	
2	土師器 甕	底径　8.1	①酸化焔　②浅黄 ③白色粒・黒色粒・赤褐色粒 ④胴部下半～底部	外面：胴部～底部器面荒れ、摩耗。 内面：胴部～底部ナデ。	

Ｄ－12号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	青磁 碗	口径（15.2）	①堅緻　②オリーブ灰 ④口縁部～体部片	外面：蓮弁文。	



D－１土層説明

Ⅰ　灰黄褐色土　10YR6/2　白色軽石φ2～10㎜多量、橙色軽石φ2㎜少量、焼土粒微量含む。しまり強い。粘性弱い。

D－２・３土層説明

1　灰黄褐色土　10YR5/2　Ⅰ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～50㎜多量、焼土粒少量含む。しまり・粘性弱い。人為埋没。

2　灰黄褐色土　10YR4/2　Ⅰ層主体、Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～50㎜少量含む。しまり・粘性弱い。

3　にぶい黄褐色土　10YR5/4　Ⅳ・Ⅵ層ブロックφ2～50㎜多量含む。しまり・粘性ややあり。

D－４土層説明

1　暗褐色土　10YR3/1　As-B混土主体、Ⅷ層ブロックφ2～5㎜少量含む。しまりややあり、粘性弱い。

2　灰白色土　10YR8/2　Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～100㎜多量、As-Cφ2～5㎜少量含む。しまりややあり、粘性あり。人為埋没。

3　灰黄褐色土　10YR4/2　As-B混土主体、Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～30㎜少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。

D－５土層説明

1　にぶい黄褐色土　10YR5/3　As-A混土主体、Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～30㎜多量、焼土ブロックφ2～20㎜・炭化物・灰白色軽石φ2～5㎜中量含む。しまり・粘性弱い。

2　灰黄褐色土　10YR4/2　As-A混土主体、Ⅵ層ブロックφ2～20㎜少量含む。しまり弱い、粘性弱い。

D－６土層説明

1　灰黄褐色土　10YR5/2　As-B混土主体、Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～30㎜多量、焼土粒・炭化物中量、Ⅵ層ブロックφ2～50㎜少量含む。しまりあり、粘性やや弱い。

D－７土層説明

1　灰黄褐色土　10YR5/2　As-B混土主体、Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～30㎜多量、Ⅵ層ブロックφ2～20㎜中量、焼土粒少量含む。しまりあり、粘性弱い。

D－８土層説明

1　灰黄褐色土　10YR5/2　As-Cφ2～5㎜多量、Hr-FAφ2～5㎜・Ⅵ・Ⅷ層ブロックφ2～15㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりあり、粘性やや弱い。

D－９土層説明

1　黒褐色土　10YR3/1　As-Cφ2～5㎜・焼土粒少量、炭化物微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。

2　黒褐色土　10YR3/2　As-Cφ2～8㎜・焼土ブロックφ2～10㎜多量、炭化物・Ⅷ層ブロックφ2～10㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。

3　黒色土　10YR2/1　As-Cφ2～8㎜多量、焼土粒・Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～10㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。

4　にぶい黄褐色土　10YR4/3　As-Cφ2～5㎜・Ⅳ層ブロックφ2～20㎜中量、焼土粒少量含む。しまりあり、粘性やや弱い。

5　黒褐色土　10YR3/1　As-Cφ2～8㎜多量、焼土ブロックφ1～20㎜中量、炭化物少量含む。しまりやや弱い、粘性やややあり。

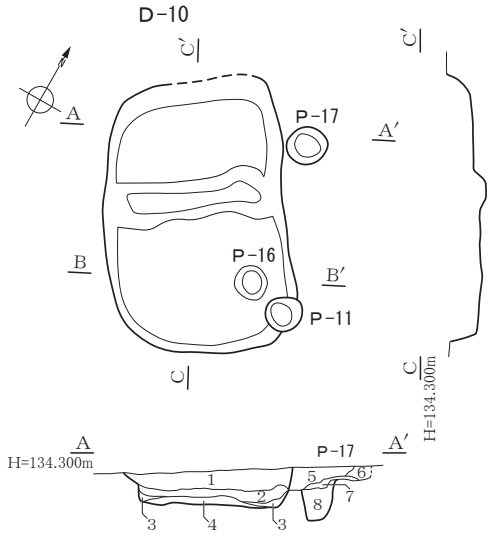
6　黒褐色土　10YR3/1　As-Cφ2～5㎜多量、Ⅳ層ブロックφ1～10㎜・焼土粒微量含む。しまり・粘性やややあり。

7　暗褐色土　10YR3/3　As-Cφ2～8㎜・Ⅳ層ブロックφ2～30㎜多量、焼土ブロックφ2～5㎜中量、Ⅸ層ブロックφ2～10㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。

8　黒色土　10YR2/1　As-Cφ2～8㎜多量、Ⅳ層ブロックφ2～15㎜中量、焼土粒微量含む。しまり・粘性やや弱い。

9　黒色土　10YR2/1　As-Cφ2～8㎜多量、焼土粒・Ⅸ層ブロックφ2～15㎜少量、Ⅳ層ブロックφ2～15㎜微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。

Fig.10　土坑（1）

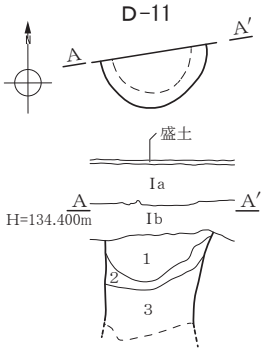


D-10Ａ－Ａ′ 土層説明

1	黒褐色土	10YR3/1	As-Cφ2～5㎜中量、Ⅷ層ブロックφ2～10㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりややあり、粘性弱い。
2	暗褐色土	10YR3/3	As-Cφ2～5㎜中量、焼土粒・炭化物・Hr-Faφ2㎜少量、Ⅷ層ブロックφ2～10㎜微量含む。しまりあり、粘性やや弱い。
3	にぶい黄褐色土	10YR5/3	As-Cφ2～5㎜中量、Ⅷ層ブロックφ2～10㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
4	灰黄褐色土	10YR5/2	Ⅳ・Ⅵ・Ⅷ層ブロックφ2～50㎜多量、As-Cφ2㎜中量、焼土粒・炭化物微量含む。しまり・粘性ややあり。
5	褐灰色土	10YR6/1	Ⅷ層ブロックφ2～30㎜多量、Ⅳ・Ⅵ層ブロックφ2～20㎜少量含む。しまり・粘性あり。

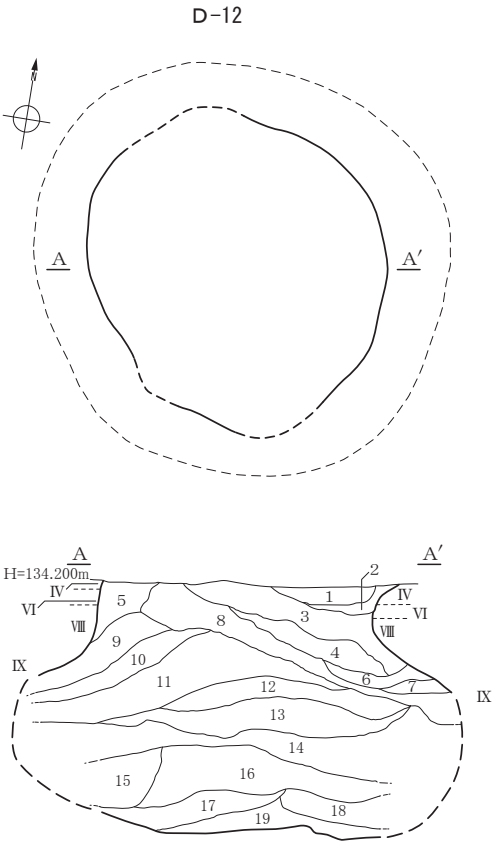
D-10Ｂ－Ｂ′ 土層説明

1	灰黄褐色土	10YR4/2	As-Cφ2～5㎜・Ⅳ・Ⅵ層ブロックφ2～30㎜多量、焼土粒・Hr-FAφ2㎜・Ⅷ層ブロックφ2～20㎜少量含む。しまりあり、粘性やや弱い。
2	褐灰色土	10YR4/1	As-Cφ2～5㎜・Ⅷ層ブロックφ2～30㎜多量、Ⅳ・Ⅵ層ブロックφ2～20㎜中量、焼土粒少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
3	褐灰色土	10YR6/1	Ⅵ・Ⅷ層ブロックφ2～10㎜中量、As-Cφ2㎜少量含む。しまり・粘性あり。
4	灰白色土	10YR7/1	Ⅷ層ブロックφ2～20㎜多量、Ⅵ層ブロックφ2～10㎜少量、As-Cφ2㎜微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
5	灰黄褐色土	10YR4/2	As-Cφ2～5㎜中量、Hr-Faφ2～5㎜・Ⅳ層ブロックφ2～15㎜少量、焼土粒・Ⅷ層ブロックφ2～20㎜微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
6	にぶい黄褐色土	10YR4/3	As-Cφ2㎜少量、焼土粒・Hr-Faφ2㎜・Ⅷ層ブロックφ2～5㎜微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
7	褐灰色土	10YR4/1	Ⅳ・Ⅷ層ブロックφ2～10㎜多量、As-Cφ2㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
8	褐灰色土	10YR4/1	Ⅳ・Ⅷ層ブロックφ2～10㎜多量、Ⅵ層ブロックφ2～20㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。



Ｄ－11 土層説明

1	灰黄褐色土	10YR5/2	As-B混土主体、焼土粒・炭化物・As-Cφ2～5㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
2	灰黄褐色土	10YR4/2	As-B混土主体、焼土粒・炭化物・As-Cφ2～8㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
3	褐灰色土	10YR4/1	As-B混土主体、Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～50㎜中量、焼土粒・炭化物少量含む。しまり弱い、粘性やや弱い。



Ｄ－12 土層説明

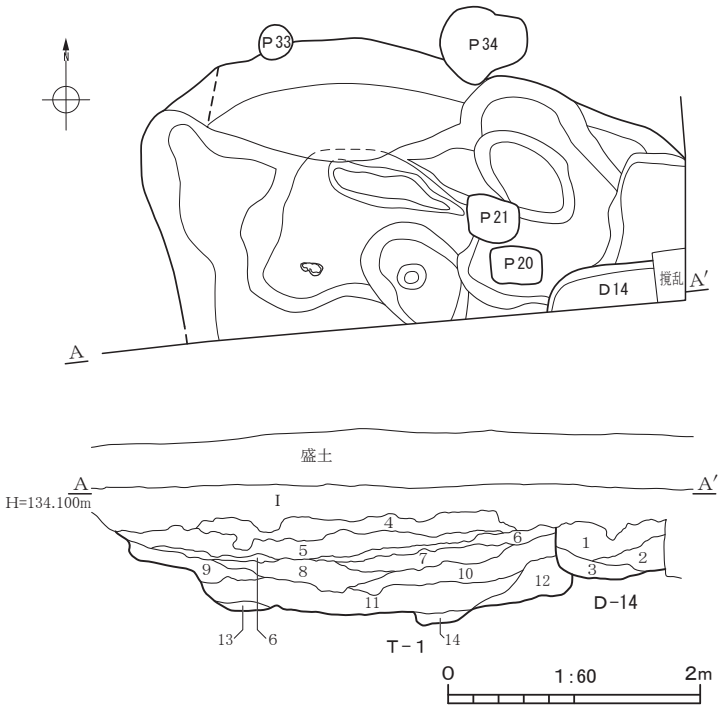
1	浅黄橙色土	10YR8/4	Ⅸ層ブロックφ2～50㎜多量含む。しまりやや弱い、粘性なし。
2	褐灰色土	10YR4/1	As-Cφ2～5㎜・Hr-FAφ2～15㎜少量、焼土粒微量含む。しまりあり、粘性やや弱い。
3	褐灰色土	10YR5/1	Ⅵ・Ⅶ層ブロックφ2～60㎜多量含む。しまり・粘性強い。
4	にぶい黄褐色土	10YR4/3	Ⅳ～Ⅵ層ブロックφ2～100㎜多量含む。しまり・粘性強い。
5	にぶい黄橙色土	10YR7/2	Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～50㎜多量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
6	褐灰色土	10YR4/1	As-Cφ2㎜中量、Ⅸ層ブロックφ2～5㎜少量含む。しまりややあり、粘性あり。
7	灰黄褐色土	10YR4/2	As-Cφ2㎜・Ⅸ層ブロックφ2～10㎜中量含む。しまり・粘性弱い。
8	灰黄褐色土	10YR5/2	Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～30㎜多量、As-Cφ2～5㎜中量含む。しまり・粘性やや弱い。
9	灰黄褐色土	10YR4/2	Ⅷ層ブロックφ2～10㎜中量、Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～30㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
10	灰黄褐色土	10YR6/2	Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～50㎜多量、Ⅶ層ブロックφ2～30㎜少量含む。しまり・粘性やや弱い。
11	にぶい黄橙色土	10YR7/2	Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～50㎜多量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
12	灰黄褐色土	10YR4/2	Ⅶ～Ⅸ層ブロックφ2～80㎜多量含む。しまりややあり・粘性やや弱い。
13	にぶい黄橙色土	10YR7/2	Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ2～50㎜多量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
14	黒褐色土	10YR3/1	As-Cφ2～10㎜多量、焼土粒・炭化物少量含む。しまり・粘性ややあり。
15	浅黄橙色土	10YR8/4	壁面崩落土（Ⅸ層）。しまりあり、粘性なし。
16	褐灰色土	10YR4/1	Ⅳ～Ⅸ層ブロックφ2～15㎜多量、As-Cφ2～5㎜中量、焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
17	黒褐色土	10YR3/1	Ⅳ～Ⅵ層ブロックφ2～50㎜多量、Ⅷ層ブロックφ2～20㎜少量含む。しまりややあり、粘性あり。
18	浅黄橙色土	10YR8/4	Ⅸ層ブロックφ2～100㎜多量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
19	灰黄褐色土	10YR6/2	Ⅵ～Ⅸ層ブロックφ2～20㎜多量含む。しまりあり・粘性あり。

0　1:60　2m

Fig.11　土坑（2）

５．竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構は調査区南東端で検出されており、プラン西側は重複するＷ－２ｂ号溝上～中層を削平している。プラン東側および南側が調査区外に延びていることから、平面形態や遺構の性格ついては不明な点が多い。底面には多数の凹凸が認められており、部分的に土坑状あるいは溝状の掘り込みも見受けられる。出土遺物はＷ－２ｂ号溝からの流れ込みとみられる土師器片が少量出土しているに過ぎず、帰属時期を明確に示すような遺物は出土していない。埋没土はＷ－２ａ号溝と類似していることから、平安時代以降に帰属する可能性が考えられる。



T-１・D-14 土層説明

1	灰黄褐色土	10YR5/2	白色軽石φ2㎜多量、As-C・Hr-FAφ2～10㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりややあり、粘性弱い。
2	灰黄褐色土	10YR4/2	白色軽石φ2㎜中量、As-Cφ2㎜少量、焼土粒微量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
3	灰黄褐色土	10YR4/2	As-Cφ2～5㎜・白色軽石φ2㎜多量、焼土粒少量含む。しまり・粘性弱い。
4	黒褐色土	10YR3/1	As-B混土主体、As-C・Hr-FAφ2～5㎜・Ⅳ・Ⅵ層ブロックφ2～15㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
5	灰黄褐色土	10YR6/2	Ⅷ・Ⅸ層ブロックφ5～50㎜多量、As-B・As-Cφ2～5㎜中量、少礫φ2～10㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまり弱い、粘性やや弱い。人為埋没土。
6	褐灰色土	10YR4/1	As-B混土主体、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性弱い。
7	黒褐色土	10YR3/1	As-Cφ2～5㎜多量、Hr-FAφ2㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。
8	褐灰色土	10YR4/1	As-Cφ2～5㎜多量、Hr-FAφ2～10㎜少量、焼土粒微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
9	褐灰色土	10YR5/1	As-Cφ2～5㎜多量、Hr-FAφ2～5㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。
10	黒褐色土	10YR3/2	As-Cφ2～10㎜多量、Hr-FAφ2㎜中量含む。しまり・粘性やや弱い。
11	褐灰色土	10YR4/1	As-Cφ2～10㎜多量、Hr-FAφ2㎜中量、焼土粒微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
12	褐灰色土	10YR4/1	As-Cφ2～5㎜多量、Hr-FAφ2～5㎜・Ⅸ層ブロックφ2～5㎜少量、Ⅵ層ブロックφ2～10㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
13	褐灰色土	10YR6/1	As-Cφ2～5㎜・Ⅷ層ブロックφ2～30㎜少量、Hr-FAφ2㎜微量含む。しまり・粘性あり。
14	褐灰色土	10YR4/1	As-Cφ2～5㎜中量、Ⅷ層ブロックφ2～20㎜少量、Hr-FAφ2㎜微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。

Fig. 12　Ｔ－１号竪穴状遺構

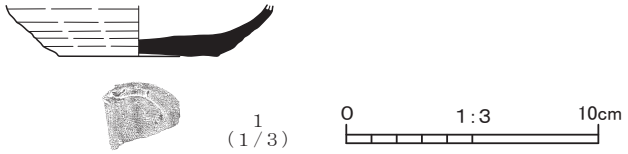


Fig. 13　Ｔ－１号竪穴状遺構出土遺物

Tab. 10　Ｔ－１号竪穴状遺構出土遺物観察表

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 坏	口径（6.4）	①還元焔　②灰白 ③黒色粒・白色粒 ④体部下位～底部1/6	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	

６．溝

３条の溝が検出された。Ｗ－１号溝は長方形状を呈する土坑が２～３基重複しているものと思われ、埋没土が表土と近似していることから、近世以降に帰属するとみられる。Ｗ－２号溝は南北方向に延伸する規模の大きい溝である。調査区両端の断面観察の結果、２回以上の掘り直しが行われており、最も新しい溝をＷ－２a、その前段階をＷ－２b とした。なお、新旧については断面による把握であり、平面的には下層においてのみ埋没土の

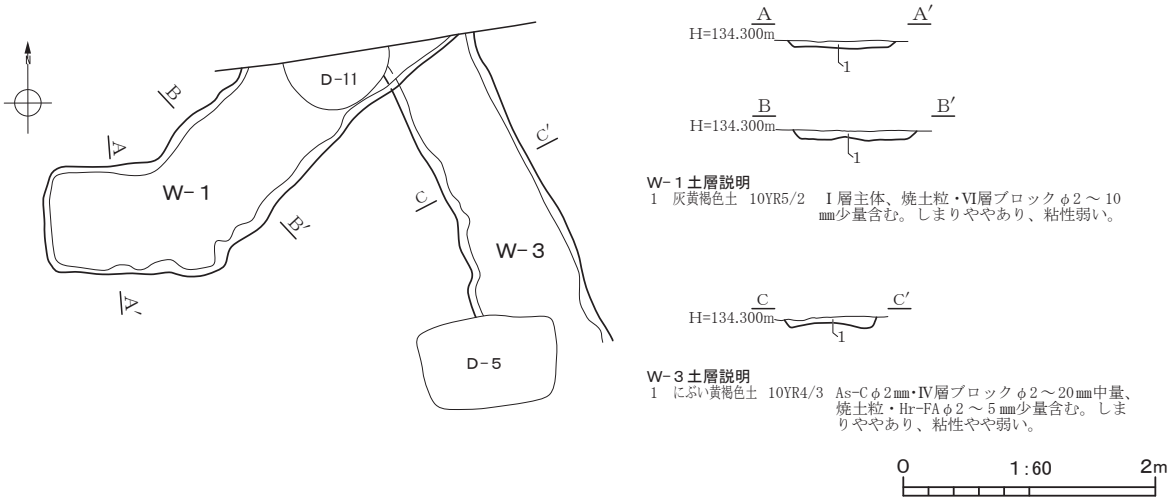


Fig. 14　W－1号溝・W－2号溝

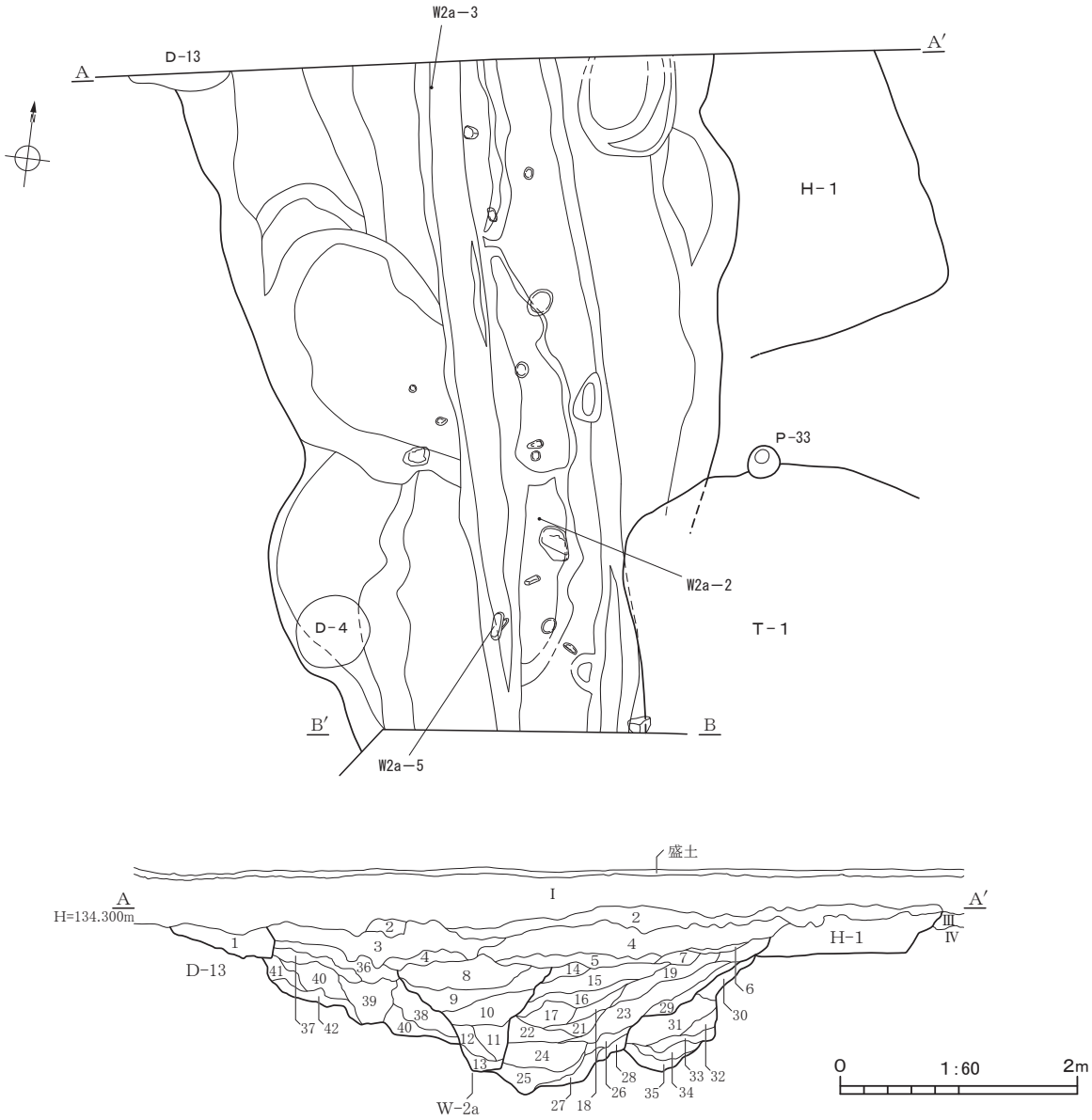
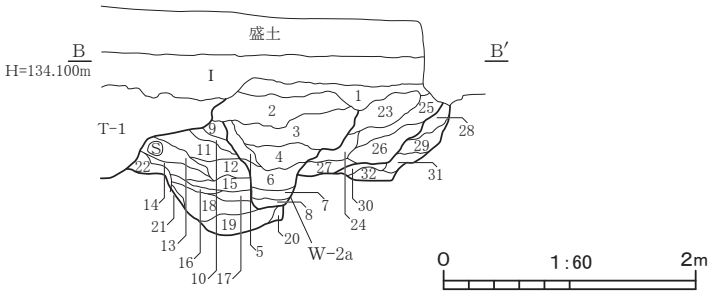


Fig. 15　W－2号溝（1）



W-２・D-13 土層説明（Ａ－Ａ′）

1 灰黄褐色土 10YR5/2 As-B 混土主体、焼土粒・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 15 ㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
2 黒褐色土 10YR3/1 As-B 混土主体、As-C・Hr-FA φ2 ～ 5 ㎜・Ⅳ・Ⅵ層ブロック φ2 ～ 15 ㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
3 灰黄褐色土 10YR4/2 As-B 混土主体、As-C φ2 ㎜中量、焼土粒・炭化物少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
4 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
5 褐灰色土 10YR4/1 鉄斑多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
6 暗褐色土 10YR4/3 鉄斑中量、As-C φ2 ㎜少量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
7 褐灰色土 10YR4/1 Ⅷ・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 20 ㎜多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜・鉄斑少量含む。しまり・粘性やや弱い。
8 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜少量、鉄斑微量含む。しまり・粘性ややあり。
9 暗褐色土 10YR3/3 As-C φ2 ㎜中量、鉄斑少量、焼土粒微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
10 黒褐色土 10YR3/2 As-C φ2 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
11 暗褐色土 10YR3/3 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜少量、鉄斑微量含む。しまり・粘性あり。
12 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、鉄斑少量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
13 黒褐色土 10YR3/2 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 20 ㎜少量、鉄斑微量含む。しまり・粘性やや弱い。
14 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
15 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
16 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
17 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまりあり、粘性強い。
18 暗褐色土 10YR3/3 As-C φ2 ㎜・鉄斑少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
19 黒褐色土 10YR3/2 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、焼土粒・鉄斑少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
20 暗褐色土 10YR3/3 As-C φ2 ～ 5 ㎜多量、鉄斑中量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
21 暗褐色土 10YR3/3 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Hr-FA φ2 ㎜中量、鉄斑少量含む。しまりあり、粘性やや弱い。
22 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 10 ㎜・Hr-FA φ2 ～ 5 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
23 黒褐色土 10YR3/2 As-C φ2 ㎜中量、鉄斑少量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
24 灰黄褐色土 10YR6/2 砂粒・灰色シルト多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性なし。ラミナ状の堆積層。
25 褐灰色土 10YR6/1 砂粒・灰色シルト多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ～ 10 ㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。ラミナ状の堆積層。
26 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ㎜中量、鉄斑少量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまりあり、粘性ややあり。
27 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜少量含む。しまりやや弱い・粘性あり。
28 暗褐色土 10YR3/4 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜中量、鉄斑少量含む。しまり・粘性ややあり。
29 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、鉄斑・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜少量含む。しまり・粘性ややあり。
30 黒褐色土 10YR3/1 Ⅵ層主体の壁面崩落土。しまりあり、粘性強い。
31 灰黄褐色土 10YR4/2 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜多量、鉄斑中量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
32 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ㎜・Ⅵ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜中量、鉄斑少量含む。しまりややあり、粘性あり。
33 にぶい黄褐色土 10YR5/3 Ⅷ・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜多量、鉄斑中量含む。しまりあり、粘性強い。
34 にぶい黄褐色土 10YR6/3 Ⅷ・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 50 ㎜多量、鉄斑少量含む。しまり・粘性あり。
35 褐灰色土 10YR4/1 Ⅶ・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜多量、鉄斑中量、焼土粒少量含む。しまり・粘性あり。
36 黒褐色土 10YR3/2 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜少量、鉄斑微量含む。しまり・粘性やや弱い。
37 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 20 ㎜少量、鉄斑微量含む。しまり・粘性やや弱い。
38 暗褐色土 10YR3/3 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜中量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまり・粘性やや弱い。
39 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅸ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜少量含む。しまり・粘性弱い。
40 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜多量、Hr-FA φ2 ～ 10 ㎜・Ⅶ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。
41 灰黄褐色土 10YR4/2 As-C φ2 ㎜多量、焼土粒・Hr-FA φ2 ㎜少量含む。しまりあり、粘性やや弱い。
42 褐灰色土 10YR4/1 Ⅵ～Ⅸ層ブロック φ2 ～ 20 ㎜、As-C φ2 ㎜少量含む。しまり・粘性あり。

W-２土層説明（Ｂ－Ｂ′）

1 黒褐色土 10YR3/1 As-B 混土主体、As-C・Hr-FA φ2 ～ 5 ㎜・Ⅳ・Ⅵ層ブロック φ2 ～ 15 ㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。
2 褐灰色土 10YR5/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
3 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 10 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまり・粘性ややあり。
4 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 10 ㎜・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜中量、Hr-FA φ2 ～ 10 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性あり。
5 褐灰色土 10YR5/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜少量、焼土粒・炭化物・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
6 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 10 ㎜多量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性あり。
7 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
8 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜・砂粒・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 20 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量含む。しまり・粘性やや弱い。
9 褐灰色土 10YR6/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量含む。しまり・粘性ややあり。
10 褐灰色土 10YR5/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜・砂粒少量、焼土粒微量含む。しまりややあり、粘性あり。
11 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜・Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまりあり、粘性強い。
12 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 10 ㎜・Hr-FA φ2 ～ 5 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
13 黒褐色土 10YR3/2 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。
14 褐灰色土 10YR5/1 As-C・Hr-FA φ2 ～ 5 ㎜中量、Ⅷ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜少量含む。しまりややあり、粘性やや弱い。
15 灰黄褐色土 10YR6/2 砂粒・灰色シルト多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性なし。ラミナ状の堆積層。
16 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜少量、Hr-FA φ2 ㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
17 褐灰色土 10YR6/1 砂粒・灰色シルト多量、As-C・Hr-FA φ2 ～ 5 ㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。ラミナ状の堆積層。
18 褐灰色土 10YR6/1 砂粒・灰色シルト多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ～ 10 ㎜少量含む。しまりやや弱い、粘性弱い。ラミナ状の堆積層。
19 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 15 ㎜中量、Hr-FA φ2 ～ 8 ㎜少量、焼土粒・Ⅷ・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 15 ㎜微量含む。しまり・粘性あり。
20 浅黄橙色土 10YR8/3 Ⅸ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜中量含む。しまり・粘性やや弱い。
21 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜少量含む。しまりやや弱い・粘性あり。
22 褐灰色土 10YR5/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒・Ⅸ層ブロック 2 ～ 30 ㎜微量含む。しまり・粘性ややあり。
23 褐灰色土 10YR5/1 As-C φ2 ～ 10 ㎜中量、Hr-FA φ2 ～ 8 ㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまり・粘性ややあり。
24 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ～ 8 ㎜少量、焼土粒・炭化物微量含む。しまり・粘性ややあり。
25 褐灰色土 10YR4/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜多量、Hr-FA φ2 ㎜少量含む。しまり・粘性ややあり。
26 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜多量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。
27 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Hr-FA φ2 ㎜少量、焼土粒微量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。
28 黒褐色土 10YR3/1 As-C φ2 ㎜中量、Ⅷ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜少量含む。しまり・粘性ややあり。
29 にぶい黄褐色土 10YR6/3 Ⅳ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜多量、As-C φ2 ～ 5 ㎜中量、Ⅷ層ブロック φ2 ～ 10 ㎜少量含む。しまり・粘性あり。壁面崩落土ヵ。
30 灰黄褐色土 10YR6/2 Ⅷ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜中量、焼土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。
31 黒褐色土 10YR3/1 Ⅵ層主体の壁面崩落土。しまりあり、粘性強い。
32 浅黄橙色土 10YR8/3 Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ層ブロック φ2 ～ 30 ㎜多量含む。しまりやや弱い、粘性ややあり。

Fig. 16　Ｗ－２号溝（２）

差異が明瞭に認められた。Ｗ－２a 号溝の底面には浅い窪み穴が多く認められており、工具痕の可能性が考えられる。埋没状態は自然堆積と判断され、常態的な流水を示すような痕跡は確認されなかった。また、底面における北端・南端の標高に違いはみられなかったことから、区画を目的とする溝であったと思われる。Ｗ－２b 号溝の底面には、流水に浸食されたとみられる凹凸（甌穴）が顕著であり、一部では浅い溝状に抉り込まれている範囲が認められた。埋没土の下層には、砂粒・シルトを基調とするラミナ状堆積、中層にはノロ状の褐灰色粘質土

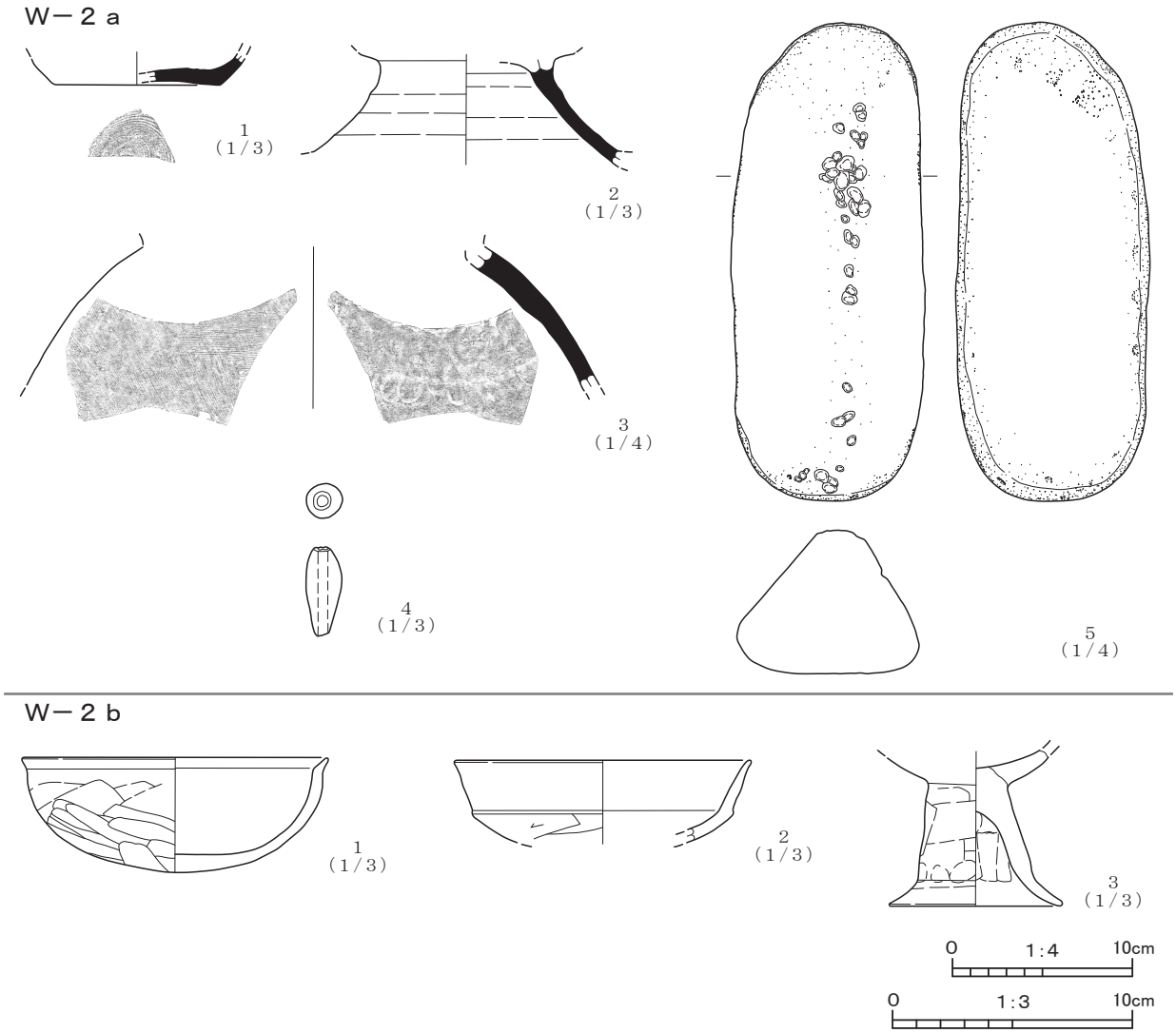


Fig. 17　W－２号溝出土遺物

Tab. 11　W－２号溝出土遺物観察表

W－２ａ号溝

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 坏	底径（ 7.0）	①還元焔　②灰 ③白色粒 ④体部下位～底部片	外面：体部轆轤整形、底面右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
2	須恵器 高台椀	口径　10.1 底径　 3.4 器高　 5.7	①還元焔　②灰黄 ③黒色鉱物・チャート・石英 ④脚部 1/5	外面：轆轤整形、高台貼付。 内面：轆轤整形、ヨコナデ。	
3	須恵器 甕	―	①還元焔　②にぶい黄橙 ③白色粒・赤色粒・チャート ④口縁～底部 3/4	外面：並行叩き。 内面：ナデ、当て具痕。	
4	土製品 土錘	長さ 3.7　幅 1.5　厚さ 1.5　重さ 7.3 g。ナデ。			
5	石製品 砥石	長さ 26.6　幅 10.8　厚さ 8.0　重さ 3615.5 g。安山岩製。３面使用。砥面は使用により平滑し、表面の一部に敲打痕あり。			

W－２ｂ号溝

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	土師器 坏	口径（12.8） 器高　 4.8	①酸化焔　②橙 ③透明粒・黒色鉱物・白色粒 ④ 2/5	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。 内面：口縁部～底部ナデ。	
2	土師器 坏	口径（12.4）	①酸化焔　②橙 ③白色粒　④口縁部～体部片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。 内面：口縁部～体部ナデ。	
3	土師器 高坏	底径（ 7.2）	①酸化焔　②にぶい橙 ③赤褐色粒・黒色鉱物・白色粒　④坏部下位～底部	外面：坏部～脚部ナデ。裾部～底部ヨコナデ。 内面：坏部～脚部ナデ。裾部～底部ナデ。	

が堆積していることから、ある程度埋没が進むまでの期間は常態的な流水があったものと判断される。底面の標高をみると北端から南端へ10㎝以上傾斜しており、灌漑用水路として機能していた可能性が高い。遺物については、W－２a号溝から弥生土器（甕）、土師器（坏・高坏・甕・台付甕・甑）、須恵器（甕・壺）、灰釉陶器、土製品（土錘）、石器（砥石・磨石）などが出土し、W－２b号溝からは土師器（坏・高坏・甕・甑）、須恵器（甕・碗・壺）が出土している。W－３号溝は、埋没土に基本層序第Ⅳ層・Ⅵ層をブロック状に多く混入する浅い溝である。時期については、遺物が出土していないため不明である。本溝西側のＢ－１・２号掘立柱建物跡やＤ－10号土坑などと軸方位が類似していることから関連性が窺われる。

７．ピット

ピットは44基検出された。埋没土の観察からＡｓ－Ｂを混入するもの、Ａｓ－Ｃ・Ｈｒ－ＦＡを混入するもの大別され、Ａｓ－Ｂを含むものが大半を占める。埋没土別に掘立柱建物跡を構成する柱穴の把握に努めたが、Ｂ－１・２号掘立柱建物跡を検出したのみである。

８．焼土

１号焼土範囲は、W－１号溝に北側半分を削平される状態で検出された。埋没状態を観察すると、その範囲で被熱を受けたのではなく、被熱により形成された焼土がブロック状に粉砕された後に埋められたと推測される。埋没土中にＡｓ－Ｂが含まれていないことから、12世紀初頭以前に帰属すると思われる。

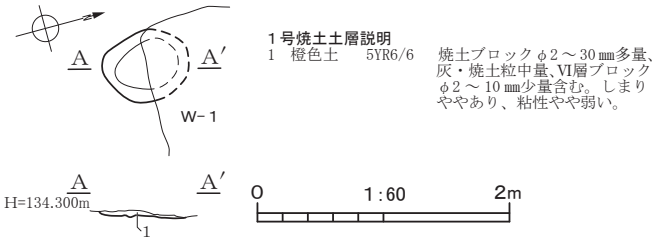


Fig.18　１号焼土範囲

９．遺構外出土遺物

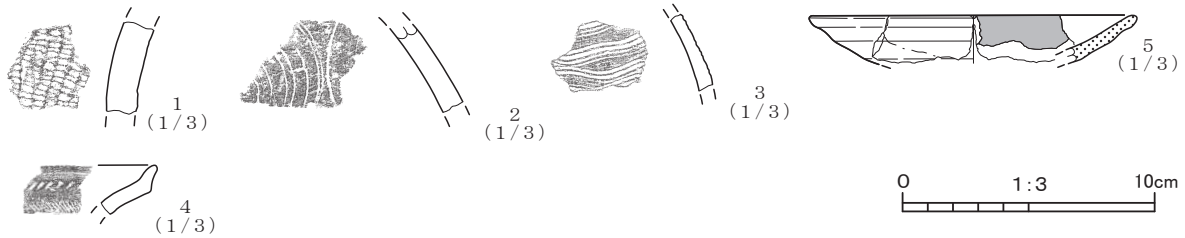


Fig.19　遺構外出土遺物

Tab.12　遺構外出土遺物観察表

番号	器　種	法量（㎝）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	縄文土器 深鉢	－	①酸化焔　②にぶい黄褐 ③赤褐色粒・黒色鉱物・白色粒　④胴部片	外面：胴部ＬＲ縄文。 内面：胴部ナデ。	
2	弥生土器 壺	－	①酸化焔　②黒褐 ③角閃石・白色粒　④胴部片	外面：胴部同心円文。 内面：胴部ナデ。	
3	弥生土器 甕	－	①酸化焔　②にぶい褐 ③黒色鉱物・白色粒 ④胴部片	外面：胴部櫛描文。 内面：胴部ナデ。	
4	土師器 甕	－	①酸化焔　②にぶい黄褐 ③黒色粒・白色粒・チャート ④口縁部	外面：口縁部ナデ後刺突文。 内面：口縁部ナデ。	Ｓ字甕Ａ類。
5	灰釉陶器 皿	口径（14.2）	①還元焔　②オリーブ黄 ③白色粒　④口縁部～体部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	釉薬漬け掛け。

Ⅵ　まとめ

本遺跡では縄文時代・弥生時代・古墳時代前～後期・古代・中近世と考えられる遺構および遺物が検出されている。ただし、縄文時代・弥生時代・古墳時代前期に関しては、遺構は検出されておらず土器片が少量出土しているのみであるが、本遺跡周辺に該期の遺構が存在する可能性を示唆している。以下では、本遺跡から検出された大型の溝であるＷ－２号溝について若干の補足を行いまとめとしたい。

今回の調査で検出されたＷ－２号溝は、南北方向に主軸をもつ規模の大きな溝である。調査区両壁際における断面観察の結果、少なくとも２回以上の掘り直しが確認されている。そのうち、古い段階であるＷ－２b 号溝は、先述したように埋没状態などから灌漑用水路として機能していた可能性が考えられる。出土遺物については、北東側で重複しているＨ－１号竪穴建物跡あるいは上流域の遺構からの紛れ込みと思われる６世紀前半の土師器片（坏・高坏・甕・甑）が大半を占めるが、古墳時代後期の土師器（坏）や須恵器（甕）の破片も少量出土している。灌漑用水路として機能していた時期については、重複する遺構との新旧関係や出土遺物などから古墳時代後期～平安時代と推測される。

一方、新しい段階であるＷ－２a 号溝は、規模がやや小さく薬研状に掘り込まれている。調査区両壁際の断面観察によると、掘り直しが行われた時点でＷ－２b 号溝は機能しておらず大半は埋まっていたようである。底面の標高差および埋没土中に流水の痕跡を示す痕跡が認められないことから、Ｗ－２b 号溝とは異なる機能を果たしていたことが推測される。出土遺物の主体は、Ｗ－２b 号溝からの紛れ込みであるが、時期を示す遺物として９～ 10 世紀と想定される須恵器（坏・甕・壺）の破片が少量出土している。本溝が機能していた時期については、Ｗ－２b 号溝との新旧関係および出土遺物などから平安時代と想定される。なお、埋没土中にはＡｓ－Ｂ一次堆積が確認されていないことから、12 世紀初頭には溝としての機能を失い完全に埋没していたとみられる。

ところで、本遺跡周辺における午王頭川の右岸では、これまで七日市遺跡・高井桃ノ木遺跡・見柳東遺跡・総社植野北開土遺跡などが調査され、灌漑用水路と考えられる溝跡がそれぞれ検出されている。それらの帰属時期に関しては、いずれも古代に機能していたとの報告がなされていることから、Ｗ－２b 号溝とは同時期に機能していなかったようである。

いずれにしても、今回の調査では検出された範囲が僅かであり、Ｗ－２aおよびＷ－２b 号溝がどのように展開していくのか現段階では不明であり、本遺跡周辺における古墳時代後期～古代の午王頭川右岸で形成されている灌漑用水路網のあり方に関しては、今後の調査成果に期待するところである。

引用・参考文献

群馬県史編さん委員会　1989 『群馬県史　通史編１　原始古代１』 群馬県

日沖剛史　ほか 『元総社蒼海遺跡群（37）』 前橋市教育委員会

南田法正　ほか　2011 『大渡道場遺跡』 前橋市教育委員会

伊藤順一　ほか　2013 『元総社蒼海遺跡群（39）』 前橋市教育委員会

麻生敏隆　ほか　1998 『下東西清水上遺跡』 ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

能登　健　ほか　2006 「関東地方の初期Ｓ字甕出土遺跡の立地について」『研究紀要 24』 ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

写 真 図 版

調査区全景　遠方に榛名山を望む

調査区全景　上が北

Ｈ－１号竪穴建物跡　遺物出土状態　（南西から）

Ｔ－１号竪穴状遺構　完掘状態　（東から）

Ｄ－６号土坑　完掘状態　（西から）

Ｄ－10 号土坑　完掘状態　（北西から）

Ｄ－12 号土坑　セクション　（北から）

Ｗ－２号溝　遺物出土状態　（北から）

Ｗ－３号溝　完掘状態　（北から）

調査区北西端　標準堆積土層　（北東から）

Ｈ－１号竪穴建物出土遺物

Ｈ１住－１

Ｈ１住－２

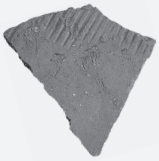
Ｈ１住－３

Ｈ１住－４

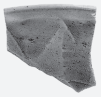
Ｈ１住－５

土坑出土遺物

Ｄ５土－１



Ｄ７土－１



Ｄ 12 土－１

Ｄ９土－１

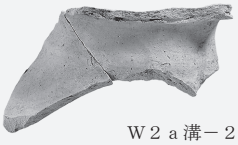
Ｄ９土－２

Ｔ－１号竪穴状遺構出土遺物

Ｔ１竪－１

溝跡出土遺物

Ｗ２ａ溝－１

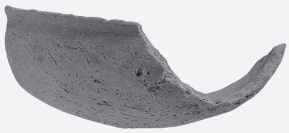


Ｗ２ａ溝－２

Ｗ２ａ溝－３

Ｗ２ａ溝－４

Ｗ２ａ溝－５



Ｗ２ｂ溝－１

Ｗ２ｂ溝－２

Ｗ２ｂ溝－３

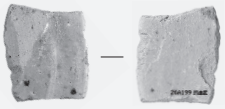
遺構外出土遺物

外－１

外－２

外－３

外－４



外－５

抄　　録

フリガナ	ソウジャマチムカイハタイセキナンバーイチ
書名	総社町向畑遺跡№.1
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	藤坂和延・土井道昭
編集機関	有限会社　毛野考古学研究所
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市総社町３－11－４　TEL　027-280-6511
発行年月日	西暦 2015 年７月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	（日本測地系）			㎡	
そうじゃまちむかいはた 総社町向畑 いせきなんばーいち 遺跡 №. 1	ぐんまけんまえばししそうじゃ 群馬県前橋市総社 まちうえの 町植野 594、597	10201	0115	36° 25′ 02″	139° 02′ 02″	20150309 ～ 20150327	150	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
総社町向畑 遺跡№.1	集落	古墳 奈良 平安 中世	竪穴建物跡　１軒 溝　３条 土坑　14 基 ピット　44 基 竪穴状遺構　１基 焼土範囲　１ヶ所	弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 土製品 鉄滓 剥片 青磁 陶器	古墳時代後期の集落を確認

総社町向畑遺跡No.１
宅地造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 27 年 7 月 25 日印刷
平成 27 年 7 月 31 日発行

編　集／有限会社　毛野考古学研究所
発　行／前橋市教育委員会
前橋市総社町３－ 11 －４
TEL　027-280-6511
印　刷／朝日印刷工業株式会社